

研究・調査報告書

| | | |
|--|--------|---------------------|
| 分類番号 | 報告書番号 | 担当 |
| A-131 | 16-129 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 |
| 題名（原題／訳） | | |
| <p>Maternal Alcohol Use During Pregnancy and Associated Morbidities in Very Low Birth Weight Newborns.</p> <p>妊娠中の飲酒と極低出生体重児の死亡率の研究</p> | | |
| 執筆者 | | |
| Gauthier TW, Guidot DM, Kelleman MS, McCracken CE, Brown LA. | | |
| 掲載誌 | | |
| Am J Med Sci. 2016 Oct;352(4):368-375. doi: 10.1016/j.amjms.2016.06.019. Epub 2016 Jul 4. | | |
| キーワード | | PMID |
| 極低出生体重児、飲酒量、早産、死亡率、呼吸器、敗血症 | | 27776718 |
| 要 旨 | | |
| 目的： | | |
| 妊婦のアルコール暴露は早産を招き、早産児の死亡率を高めるという仮説を検証した。 | | |
| 方法： | | |
| 2009-2013年に米国アトランタの市中病院と大学病院で登録された1,500g以下の極低出生体重児129人を対象とした（内14名は双子）。同意取得率は52%。妊娠中の飲酒と量が、新生児における遅い発症の敗血症（LOS）、呼吸器官の形成障害（BPD）、死亡、死亡率等に与える影響を検討した。 | | |
| 結果： | | |
| 母親の年齢の中央値は25.5歳、85%が黒人で、多くが未婚だった。34%が妊娠初期に飲酒を伴った曝露群で、その内15%は週7杯以上の多量飲酒者、85%が7杯未満の軽度飲酒者だった。妊娠時の年齢、非合法ドラッグ使用、喫煙、在胎週数を調整したところ、被曝露群に比較して曝露群ではBPDまたは死亡のOR4.06（95%CI（以下同様）1.12-13.50）p=0.022、死亡率のOR4.36（1.50-12.63）p=0.007と上昇を認めた。被曝露群に比較し軽度飲酒群ではBPDのOR3.57（1.03-12.33）p=0.044、死亡のOR3.81（1.28-11.37）p=0.017と上昇しており、多量飲酒群ではLOSのOR13.91（1.12-173.04）p=0.041、BPDまたは死亡のOR28.13（1.32-600.37）p=0.033、死亡率のOR35.7（2.17-586.78）p=0.012と有意に上昇した。 | | |
| 結論： | | |
| 妊娠初期の飲酒は新生児早産と関連しており、新生児の死亡率を有意に上昇させた。 | | |